



十二月 (大)

師走

箕宿

十一月七日大雪の節より
月命庚子四緑木星の月
暗剣殺東南方

旧 十月小
十一月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	水	みづのひつじ	五黄	映画の日、鉄の記念日、世界エイズデー、歳末助け合い運動 旧十月小	廿七	赤口	なる	壁	天おん	6.32 16.28	2.31 14.18	2.35 14.22	8.21 21.08
2日	木	きのえさる	四緑	十方ぐれ入り、不成就日	廿六	先勝	おさん	奎	●	6.33 16.28	3.41 14.51	3.32 14.57	9.11 21.46
3日	金	きのとり	三碧	障害者週間、秩父夜祭、一粒万倍日	廿九	友引	ひらく	妻	十し	6.34 16.28	4.56 15.30	4.23 14.52	9.58 22.25
4日	土	ひのえいぬ	二黒	朔一六時四三分、人権週間、一粒万倍日 旧十一月大	朔	大安	とづ	胃	五む日	6.35 16.28	6.13 16.15	5.13 16.07	10.43 23.07
5日	日	ひのと	一白	納めの水天宮、三隣亡	二	赤口	たつ	昂	大みやう	6.36 16.28	7.29 17.11	6.02 16.43	11.27 23.49
6日	月	つちのえね	九紫	小田原秋葉権現火防祭	三	先勝	のぞく	畢	くゑ日	6.37 16.28	8.41 18.15	6.51 17.19	—
7日	火	つちのとし	八白	大雪六時五七分	四	友引	のぞく	觜	—	6.38 16.28	9.43 19.25	7.41 17.57	0.34 12.52
8日	水	かえとら	七赤	こと納め、針供養、納めの薬師、成道会、三隣亡、不成就日	五	先負	みつ	参	きこ	6.39 16.28	10.34 20.37	8.31 18.37	1.19 13.37
9日	木	かのと	六白	皇后誕生日、京都了徳寺大根焚き、漱石忌	六	佛滅	たいら	井	●	6.40 16.28	11.15 21.46	9.23 19.23	2.05 14.27
10日	金	みづのえつ	五黄	世界人権デー、納めの金毘羅、大宮氷川神社大湯祭	七	大安	さだん	鬼	大みやう	6.39 16.28	11.50 22.52	9.23 19.23	2.54 15.33
11日	土	みづのとみ	四緑	上弦一〇時三六分、岡山最上稲荷火焚祭、天一天上	八	赤口	とる	柳	十し	6.40 16.28	12.19 23.55	10.16 20.21	3.49 17.04
12日	日	きのえうま	三碧		九	先勝	やぶる	星	ちいみ	6.41 16.28	12.45 —	11.11 21.53	4.55 18.39
13日	月	きのとひつじ	二黒		十	友引	あやぶ	張	大みやう	6.42 16.28	13.11 0.54	12.04 —	6.11 19.42
14日	火	ひのえさる	一白	東京高輪泉岳寺義士祭	十一	先負	なる	翼	母倉	6.42 16.29	13.36 1.52	0.02 12.55	7.22 20.28

一年の締めくくりの月であり、年間を通じて最も日の短い月である。
この月の別名として「師走」の呼称が通例になっているのは、やはり一般に師匠までも走り出す月、という人間味を伴った語感のせいであろうか。
年の最後の月として、各地でいろいろな行事や祭祀があるが、だいたいが納めや供養である。
今年一年間の喜び、反省等、それらを思い返し、整理すること、来る年への指針となし期待を持ち、そして自戒するべきものがあれば心に響くべきであろう。
【祭】歳暮とは元来年の暮のことであるが、日ごろ世話になっている人や親戚などへの贈り物がお礼心としての「お歳暮」というならわしになった。
正月始めは、この月の八日から十三日から、正月を迎える準備をし始めることを

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	水	ひのと	九紫	年賀郵便特別扱い、東京世田谷ボロ市	十二	佛滅	おさん	軫	神よし	6.43 16.29	14.02 2.50	14.19 2.06	8.20 21.06
16日	木	つちのえいぬ	八白	不成就日	十三	大安	ひらく	角	—	6.44 16.29	14.31 3.48	14.55 2.06	9.09 21.42
17日	金	つちのと	七赤	東京浅草観音蔵の市、伊勢神宮月次祭、奈良春日大社若宮おん祭、一粒万倍日	十四	赤口	とづ	亢	ぢう日	6.44 16.30	15.04 4.46	15.27 2.15	9.51 22.15
18日	土	かえね	六白	納めの観音、一粒万倍日	十五	先勝	たつ	氏	—	6.45 16.30	15.41 5.44	15.57 2.48	10.29 22.48
19日	日	かのと	五黄	望一三時三六分	十六	友引	のぞく	房	五む日	6.45 16.31	16.24 6.41	16.26 23.21	11.03 23.21
20日	月	みづのえとら	四緑	三隣亡	十七	先負	みつ	心	大みやう	6.46 16.31	17.13 7.36	16.54 2.16	11.36 23.54
21日	火	みづのと	三碧	納めの大師	十八	佛滅	たいら	尾	●	6.47 16.31	18.07 8.25	17.23 2.16	12.07 —
22日	水	きのえと	二黒	冬至〇時五九分、ゆず湯	十九	大安	さだん	箕	大みやう	6.47 16.32	19.05 9.09	17.53 2.17	0.28 12.38
23日	木	きのと	一白		廿	赤口	とる	斗	十し	6.48 16.32	20.06 9.48	18.26 2.18	1.02 13.12
24日	金	ひのえうま	九紫	クリスマス・イブ、納めの地藏、不成就日	廿一	先勝	やぶる	牛	大みやう	6.48 16.33	21.07 10.22	19.03 2.19	1.37 13.50
25日	土	ひのとひつじ	八白	クリスマス、終い天神、蕪村忌	廿二	友引	あやぶ	女	神よし	6.48 16.34	22.09 10.53	19.50 2.20	2.15 14.38
26日	日	つちのえさる	七赤		廿三	先負	なる	虚	母倉	6.49 16.34	23.11 11.21	20.03 2.21	2.59 15.45
27日	月	つちのと	六白	下弦一一時二四分	廿四	佛滅	おさん	危	百事吉	6.49 16.35	—	21.03 2.22	3.53 17.21
28日	火	かえいぬ	五黄	官庁御用納め、納めの不動	廿五	大安	ひらく	室	大みやう	6.49 16.35	0.15 12.17	—	5.03 18.49
29日	水	かのと	四緑	一粒万倍日	廿六	赤口	とづ	壁	大みやう	6.50 16.36	1.21 12.47	—	6.24 19.48
30日	木	みづのえね	三碧	八せん始め、一粒万倍日	廿七	先勝	たつ	奎	くゑ日	6.50 16.37	2.31 13.21	11.33 12.25	7.39 20.38
31日	金	みづのとし	二黒	年越し、大はらい、除夜の鐘、男鹿なまはげ、出羽三山松例祭	廿八	友引	のぞく	婁	天おん	6.50 16.38	3.44 14.01	13.38 14.08	8.43 21.24

いう古い習慣で、すす払いから着手したものである。
二十二日前後に二十四節気の一つ「冬至」がある。
この日北半球では最も日が短く、この日を境に日脚が延びるの、地方によりそれぞれ別の行事を持つている。
風邪をひきにくいといつて「ゆず湯」に入る習慣は全国的に知られている。
二十五日はキリストの降誕日、その前夜の「クリスマス・イブ」とともに、欧米では正月よりも盛大に祝う。わが国でもキリスト教とは関係なくツリーを飾ったり、プレゼントをし合ったりする家庭も多い。
新年を迎える正月の飾り物は、三十日までには用意を終えるが、二十九日は苦節り、三十一日は一夜飾りといひ、どちらも年神様に失礼に当たるといふので、なるべく早めの準備を心掛けるべきである。
大晦日(おみそか)の夜は神棚にお灯明をあけたり、年越しそば(みそやそば)を食べたり、神社や寺院に参詣したりし、その土地土地によつて独特の習慣を持つていたりする。